

研究 主題	児童の自己存在感を高める指導の一試み ーソーシャルスキルトレーニングにおける自他の特性を見つめる場面の設定を通してー
----------	---

通級指導教室 自立活動学習指導案

指導月日 令和4年10月26日

氏名 遠藤 仁樹

1 題材名 「自分の気持ちを調整しながら学習しよう」

本研究の対象児において自立活動の指導目標を達成するために必要な区分、項目との関連

A児

- 2 心理的な安定 (2) (3)
- 3 人間関係の形成 (3) (4)
- 6 コミュニケーション (5)

B児

- 2 心理的な安定 (3)
- 3 人間関係の形成 (2) (3) (4)
- 6 コミュニケーション (5)

2 題材設定の理由

(1) 児童の実態

今年度、本校で通級指導を利用する児童は30名程度いる。学習に関する課題を抱えている児童、多動性や衝動性の傾向が強い児童、対人関係に難しさを抱えている児童など、その特性は様々である。しかし、多くの児童に共通している部分がある。それは集団で活動したり生活したりすることに苦手意識を持っているという点である。今回の研究対象である5年A児とB児についても同様の傾向が見られ、在籍学級での活動に困難を示している。

A児は、友達関係は良好であり、学習の遅れはない。しかし、自分へ視線が向けられる場面や環境の変化に対応できない。その場合、自分の思いや考えを伝えられずに固まるなど、いざというときに表現することが難しくなる。そのため、自分に自信がなく、不安が強くなると欠席や遅刻が多くなる。

B児は、相手が何を考えているのかを想像することに難しさを感じている一方、自分の思いを優先させてしまうことがあり、同級生とうまく関わるができずにいる。そのことで学校生活への不安が強くなり、業間休みに登校しすぐに下校する日が続いている。

通級指導教室における少人数での学習において、8月までは、「遊び」を媒介としてソーシャルスキルトレーニングに取り組んできた。初めは、同級生にもかかわらず、互いに自己紹介をすることも緊張した様子であった。しかし、少人数での学習を重ねることで、「安心感」や「仲間意識」が芽生え、少人数での学習には欠席することなく参加した。授業のみならず、登校した際に顔を合わせることも増え、互いの実態や互いの目標設定を常に伝え合い、聞き合っている。それにより1人が「今日1日学校にいる」と決めた話を耳にすると、もう1人も「自分もそうする」と決意する日があった。

A児は褒め言葉だけでなく、「こうするとよいよ」といったアドバイスを相手へ伝えることができるようになってきた。学校にいられる時間も長くなり、在籍学級やその廊下で授業を受ける回数が増えてきた。しかし、学級担任との情報共有から、学級で過ごす時間が増えたことにより、グループでの学習には「楽しい」と言って前向きに取り組むが、一斉指導において1人で課題を解決する時間が多い授業だと参加を渋る様子が見られることが分かった。「静かに1人でする学習だと自分のことを見られている気分になる」という理由だった。A児には、発表場面を含め、一斉指導の1人で課題を解決する時間が多い中で、自分がどのように気持ちを調整するかを考え、集団内での学習に取り組むことができる力

を育む必要がある。また、10月初旬には「運動会」、11月初旬には「学習発表会（群読）」が予定されている。それにより、学校への登校意欲が下がることが予想されるため、行事に向かって気持ちを調整していくことは必須の課題と言える。

B児は「以心伝心ゲーム」など、他者の回答を予想しながら自分の答えを考える遊びでは、A児の答えを想像しようとしたり、「もしかすると自分の行動でクラスメートに嫌な思いをさせたかもしれない」と相談に来たりと、A児やクラスメートの思いを想像しようとする意識が芽生え始めた。B児もA児と同様、学校で過ごす時間が少しずつ増えるとともに、「いずれは在籍学級を中心に学習したい」という思いを話していた。しかし、発表することへの抵抗感、適切な大きさで漢字を書くといった基本的な書字の困難さ、自分の思いや考えを整理して書くといった思考を表現する困難さ、学習に必要な語彙の不足によって、頭を抱えて固まってしまうなど、一斉指導への抵抗感がある。B児には、個別の指導を通して学習に関する障害特性に応じた対応を行うとともに、少人数での学習を通して在籍学級の一斉指導において1人で課題を解決する時間や集団解決に取り組むことができる力を育む必要がある。また、A児同様、行事への不安を感じているようであり、行事に向かって気持ちを調整する力が必要である。

(2) 題材観

「自分の気持ちを調整しながら学習しよう」は、在籍学級内での具体の学習場面を想定し、自分の気持ちを調整していく力を高めることをねらう題材である。特にこの時期に運動会と学習発表会が連続しており、気持ちが落ち込むことが予想されることから、行事へ向けた気持ちの整理が必要である。

これまで2人は、自分の現状や特性との向き合い方について、個別の学習と少人数での学習を通して考えてきた。次の段階として、在籍学級とのつながりを意識していくことで、自分がどのような場面で不安を感じるかを認識することができ、対策としてどのような行動を取るか、誰に援助を求めるかなど、自分で気持ちを調整しながらコミュニケーションを図ることができるようにしていきたいと考えた。

A児とB児のそれぞれが在籍学級に長時間いることができない理由を把握し、題材を通してそれぞれの課題へ対処する方法を練習することができるようにする。

本題材は、A児にとっては、在籍学級での具体の学習場面を通して、特に行事において、どのように自分の気持ちを調整するかを考え、学年集団での学習に取り組むことができる力を育む学習活動、B児にとっては、行事に向けて気持ちを調整していく学習活動である。不安を感じるものについて、自分の思いや向き合い方を確認し、何度も伝え合っていくことで、不安に対して自分の気持ちを調整しようとする力が促されていくことを目指していく。

(3) 指導観

児童の実態を考慮し、以下の取組を段階的に行い、指導していく。

① 個別の学習で課題の洗い出しと準備

個別の学習において、在籍学級や行事への自分の思いを見詰められるようにする。その際、授業や行事へ参加することを目的とするのではなく、授業や行事に対して自分自身がどのように感じるのか、どのように対処するかを考える手掛かりとするようにする。

② 少人数の学習でのソーシャルスキルトレーニング

個別の学習で把握したそれぞれの課題に対してどのような対策を取るのかを児童が考えてリハーサルをしたり、互いにフィードバックをしたりすることで、在籍学級でのよりよい在り方や行事への参加の仕方について検討することができるようにする。それに当たって、授業者は在籍学級での学習進度を常に確認し、連携を図ることができるようにする。

3 題材の目標

A児

- (1) ソーシャルスキルトレーニングの目的を理解し、大勢の人から見られる場面でも参加しようとする意欲を持つことができる。
- (2) 行事において、自分の気持ちを調整する方法や向き合い方を考えることができる。

B児

- (1) ソーシャルスキルトレーニングの目的を理解し、積極的にA児と関わるができる。
- (2) 行事において、自分の気持ちを調整する方法や向き合い方を考えることができる。

4 研究主題との関連

研究主題の「児童の自己存在感を高める指導の一試み」に迫るために、以下の手立てを講じていく。

(1) 自分の特性を意識させるための導入の工夫

自分の現状や特性を見詰め、他者を尊重しながら関わっていけるようにするため、導入で「行事自分分析シート」の確認を行う。「行事自分分析シート」の内容は、「学習発表会は好きか（選択式）」「それはなぜか（以下記述式）」「どのような参加の仕方をしたいか」「その参加の仕方をするために、担任の先生に相談したいことはあるか」の4点である。少人数での学習活動の導入では「行事自分分析シート」を確認し、本学習活動への意味付けを行う。その上で、ソーシャルスキルトレーニングの目的を確認することで、2人の実態を踏まえた活動であるという理解を促したい。

また、互いの特性や目標設定を共有し、最後に振り返りを行うことで、本題材の初期段階の自分との変容に気付くことができるようにする。

更に、「気持ち調整メーター」を活用する。これは、自分の気分を最高5、真ん中0、最低マイナス5として、日ごとに曲線でつないでいくものである。「自分がどんな気分か分からない」というA児の言葉を基に、行事だけでなく、日常生活でも活用している。気分を可視化し、なぜ曲線が上がったのか、下がったのかを吹き出しでコメントを付け加えることで、気分の変動の理由を振り返り、気分の変動に対する手立てを考えられるようにする。

(2) 対話を促進するための工夫

① 一単位時間のルーティン化

- ・対話を促し、関係性を温めるアイスブレイク
- ・「行事自分分析シート」の確認と共有
- ・ソーシャルスキルトレーニングの目的を確認
- ・本時の目標設定
- ・学習発表会における学年での練習動画を視聴しながらの個人及びペアでの練習
- ・「気持ち調整メーター」の確認と共有

② 対話の量を増やすための工夫

8月までの授業実践を踏まえ、授業者の発語量が多くなならないよう、導入で児童同士が自由に対話をする場面を多く作ったり、感想や質問を伝え合う場面を多く設定したりするようにする。授業者の発言は、活動の説明や、児童から困っている様子が見られたとき、ねらいからそれた場合の軌道修正のときのみ徹するように心掛ける。また、児童2人は、机を挟んでL字に座ることで、2人の距離を縮め、自然な対話を生みやすくする。更に日頃から少人数で学習する際には、様々なコミュニケーション場面に慣れることで、コミュニケーション能力の向上や学校内での安心感の高まりをねらい、職員室へ挨拶に行く活動を取り入れるようにする。振り返りでは、自分が立てた目標に対する自己評価と他者評価を行うが、他者評価では相手が設定した目標に対して実際の行動がどうであったかを前向きに伝える「ぽかぽかレター」を実施する。「ぽかぽかレター」を共有することで、温かな関係づくりを行うとともに、互いの課題に即した振り返りを意識付ける。

③ 選択肢の工夫

展開では、学年での練習動画を視聴しながら、個別に椅子に座った状態で発表会の練習をした後、ペアで練習する。その後、その場で立ってペアで練習するか、より広い空間に移動して練習するか、授業者を客として練習するかなど、いくつかのパターンから2人が互いに相談して選択できるようにする。また、多くの先生方に二人の学習の様子を参観していただく時間を研究授業として設定する。その際は、「参観者を客として練習する」という選択肢を設ける。

5 指導計画（7時間扱い）

両名は「行事自分分析シート」において、11月に予定されている「学習発表会」について、どちらも「きらい」を選択した。A児は「本番には参加したくないが、台本をもらったら練習はしたい」、B児は「本番でもできれば参加したいと思うけど1人で言うところは難しいかもしれない」とまとめていた。そこで、様々な課題がある中で本題材では、両名に共通している重要な課題として挙げた「学習発表会に向けた気持ちの調整」を目指した学習を行う。

① 題材計画

	時数	小題材名	学習内容	目標
第一次	1	行事に対する自分を分析しよう	○行事への不安を感じる要因について考える。 (少人数)	・「行事自分分析シート」を基に、行事に対する自分の課題と意思を理解することができる。
第二次	4 (本時 4時間目)	仲間と一緒に行事への参加の仕方を練習しよう	○行事の練習に取り組む。 ○行事に向けて気持ちを調整して登校したり、参加の方法を考えたりする。 (少人数)	・自己受容や他者理解を行いつつ、気持ちを調整しながら行事への参加の仕方を考えることができる。
第三次	2	自分と友達の成長を振り返ろう	○自分と同級生の成長を、第一次の課題と照らし合わせながら振り返る。 (個別・少人数)	・通級指導教室でのソーシャルスキルトレーニングと行事練習期間の気持ちの調整を踏まえ、自他の成長を考えることができる。

② 学習発表会練習全体計画

日	形態・時数		学習内容
	通級	学年	
9月中	①		気持ち調整メーターで行事までの気持ちの予定を考える。
10月13日木	②		学習発表会本番や練習への参加の仕方を検討する。
14金		①	役割ごとに集まる。せりふ決め。
17月		②	役割ごとに集まる。せりふ、演技練習。(間を取る練習)
18火		③	役割ごとに集まる。せりふ、演技練習。(声の大きさ+間)
19水	③	④	通級学習発表会本番や練習への参加の仕方を練習する。① 学年場面ごとに集まる。通し練習。(声の大きさ+間)
20木		⑤	場面ごとに集まる。通し練習。(声の大きさ+間)
21金		⑥⑦	場面ごと練習。ひな壇での場所、演技場所などを確認。
24月		⑧	通し練習。
25火		⑨⑩	通し練習。通し練習でうまくいかなかったところを場面ごとに練習。
26水	④ (本時)	⑪⑫	通級学習発表会本番や練習への参加の仕方を練習する。② 学年通し練習。通し練習でうまくいかなかったところを場面ごとに練習。
27木		⑬	通し練習。
28金		⑭	通し練習。
31月		⑮	場面ごとに集まり最終練習。
11月1日火	本番。		

6 本時の計画

(1) 小題材名「仲間と一緒に行事への参加の仕方を練習しよう」

(2) 児童の実態及び個人目標

	児童の実態	個人目標
A児	・対人関係における自己受容や他者理解ができるようになってきている。 ・行事に向けて、気持ちを落ち着けて登校することができない。	・大勢の人の前でもソーシャルスキルトレーニングに取り組むことができる。 ・行事への参加の仕方を考え、気持ちを調整しながら練習をすることができる。

B児	・対人関係における自己受容ができるようになってきている。 ・相手の思いを理解しようとする意識が芽生え始めている。 ・学習発表会での発表場面において、発表することへの抵抗感がある。	・大勢の人の前でもソーシャルスキルトレーニングに取り組むことができる。 ・自分からA児に関わることができる。 ・自分が立てた本時の目標を達成するために練習に取り組むことができる。
----	---	---

(3) 指導過程

	・児童の学習活動 ◆予想される反応 ○指導内容と指導上の留意点 ☆評価（評価方法）		準備物
	A児	B児	
導入 15分	・「はじめます」の号令を掛ける。	・号令に合わせて挨拶をする。	
	○前時の学習発表会練習を振り返り、学年全体への参加の意欲を確認する。 ○学習内容と目的を伝える。 ○「最近気になるニュース」やトーキングカードを手掛かりに、2人で対話を行えるようにする。		タブレット端末 トーキングカード
	◆今日も前回と同じで学習発表会に向けてのトレーニングだ。 ◆本番は今のところ参加できそう。 ◆今日は何の話をしようかな。	◆今日も前回と同じで学習発表会に向けてのトレーニングだ。 ◆本番は緊張するなあ。 ◆今日も好きなアニメの話をしよう。 ☆自らA児に関わっている。（観察）	
	○アイスブレイクで緊張をほぐし、関係性を温める。 ○少人数での学習の際には、毎回職員室にいる職員との関わりを持つような課題を設定し、様々なコミュニケーション場面に慣れるようにしておく。 ○見たものをクイズ形式にすることで、情報を処理する力や相手に伝える話し方を養えるようにする。		ホワイトボード ホワイトボード マーカー キャラクターの バッチ プロ野球チーム の帽子
	・アイスブレイク（「スリーヒントクイズ」と「先生観察クイズ」）に取り組む。「先生観察クイズ」については、A児は教頭先生の服装を見に行き、クイズを出す。答えは解答するBが実際に見に行く。 ◆教頭先生は白いワイシャツに黒いズボン、頭には有名な野球チームの帽子を被っていました。さてどのチームの帽子でしょうか。	・アイスブレイク（「スリーヒントクイズ」と「先生観察クイズ」）に取り組む。「先生観察クイズ」については、B児は校長先生の服装を見に行き、クイズを出す。答えは解答するAが実際に見に行く。 ◆校長先生はピンクのワイシャツ、黒いスカート、胸には有名な黄色いキャラクターのバッチを付けていました。そのキャラクターは何でしょう。	
展開 27分	○「行事自分分析シート」と「気持ち調整メーター」を振り返り、ソーシャルスキルトレーニングの目的を確認した上で本時の目標を設定する。 【目的】 少人数での学習やいろいろな人との関わりの中で、自分の気持ちを調整する。		行事自分分析 シート 一単位時間振り返り カード
	・互いの実態を確認し、本時のめあてを設定する。 ◆できればみんなとの練習には参加できるようにリハーサルをしたい。	・互いの実態を確認し、本時のめあてを設定する。 ◆できれば本番もみんなと一緒に参加できるように練習する。	
	○学習発表会本番への参加の仕方を考え、練習をするようにする。 ○学級担任には学年での練習動画を事前に撮影してもらい、動画に合わせて練習できるようにする。 ○長い物語のため、通読ではなく、自身が担当するところを中心に練習するようにする。 ○ペアの児童と一緒に練習するか、授業を参観している職員の中の1名を客と仮定して練習するか、参観者全員を客と仮定して練習するかを選ぶよう選択肢を与える。 ○本番への参加の仕方については、事前に学級担任と相談をしておく。 ○発表への抵抗感が見られた場合は、気持ちを問い、どのような発表の仕方であれば取り組むことができそうかを話し合う。		タブレット端末 （児童用） 台本 テレビ
	・導入での前時の振り返りを生かし、参加の仕方を考える。 ◆前回練習をしてみて、参加してみたい気持ちが少し下がってしまった。 ・1人で動画に合わせて練習する。 ◆動画でも学年のみんなが映っていて	・導入での前時の振り返りを生かし、参加の仕方を考える。 ◆前回練習をして、次の学年全体練習の時には参加してみたいと思った。 ・1人で動画に合わせて練習する。 ◆動画に合わせて言うことができた。	

	緊張するけれど、音声だけ聞いていればできた。 ○参観者を見ることを選ばない場合は、参観者が見えないところへ移動することも可能であることを伝える。 ○A児が参観者を見て、B児が参観者の方へ向かない場合は、「一緒に向いてみないか」とB児へ伝えてみるよう促す。 ・発表練習の設定を決めて取り組む。 ◆ぼくはBさんと一緒に合わせて練習しようかな。	○参観者を見ることを選ばない場合も、可能であれば参観者を見て練習をするよう促す。 ○B児が参観者を見て、A児が参観者の方へ向かない場合は、「一緒に向いてみないか」とA児へ伝えてみるよう促す。 ・発表練習の設定を決めて取り組む。 ◆ぼくは先生たちに向けて（動画に合わせて）練習しようかな。	一単位時間振り返りカード ぼかぼかレター
終末 3分	○「行事自分分析シート」や本時の目標と照らし合わせて自己評価を行う。また、「ぼかぼかレター」を書くことで、他者理解を促す。 ・自分と相手の視点から学習の振り返りを行い、互いに伝え合う。 ◆動画に合わせて練習できたからみんななどの練習に参加した気持ちになった。Bさんは、積極的に発表練習をされていてすごい。 ☆大勢の人の前でもソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいる。 ☆行事への参加の仕方を考え、気持ちを調整しながら練習をしている。（観察・自己評価・ぼかぼかレター）	・自分と相手の視点から学習の振り返りを行い、互いに伝え合う。 ◆先生たちの前で発表練習ができてうれしい。Aさんは、参加したくない気持ちがあるのに練習できていたからすごい。 ☆大勢の人の前でもソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいる。 ☆自分が立てた本時の目標を達成するために練習に取り組んでいる。（観察・自己評価・ぼかぼかレター）	
	○「気持ち調整メーター」を通して、現状と今後の確認をする。 ・「気持ち調整メーター」を確認する。 ◆ちょっと気持ちが下がりそうだけど朝から登校することは続けたい。 ・号令に合わせて挨拶をする。	・「気持ち調整メーター」を確認する。 ◆学校にいる時間を増やしてみんなと発表会の練習に参加してみよう。 ・「終わります」の号令を掛ける。	気持ち調整メーター

(4) 本時の評価

① 児童の評価

A児	B児
・大勢の人の前でもソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいる。 ・行事への参加の仕方を考え、気持ちを調整しながら練習をしている。	・大勢の人の前でもソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいる。 ・自分からA児に関わっている。 ・自分が立てた本時の目標を達成するために練習に取り組んでいる。

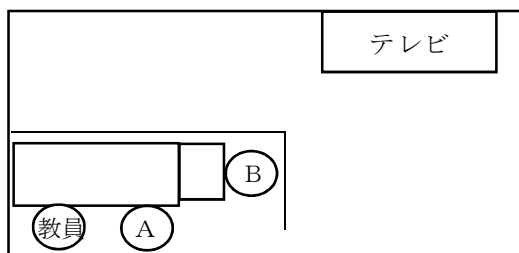
② 教師の評価

- ・児童が特性を踏まえて同級生と対話したり、学習発表会の発表場面に向けてリハーサルを行ったりすることができるように適切に介入することができていたか。

(5) 準備物

トークキングカード、行事自分分析シート（別紙1）、気持ち調整メーター（別紙1）、ホワイトボード2つ、ホワイトボードマーカー2つ、キャラクターのバッチ、プロ野球チームの帽子、学習発表会の台本（教科書）、一単位時間振り返りカード（別紙2）、ぼかぼかレター（別紙2）、タブレット端末（教師用1つ・児童用2つ）、テレビ

(6) 教室内の配置図



【行事自分分析シート】

行事自分分析シート	
名前	
1 「学習発表会」のことは好きですか？	
好き ・ どちらかというと好き ・ ふつう ・ どちらかというと嫌い ・ 嫌い	
2 「1」で選んだのはなぜですか？	
3 どのような参加の仕方をしたいですか？	
4 「3」の参加の仕方をするために、担任の先生に相談したいことはありますか？	
5 「学習発表会」を振り返って、自分の目標は達成できましたか？その理由を教えてください。	

【気持ち調整メーター】

A blank coordinate grid for plotting a line graph. The vertical axis (y-axis) is labeled with 5, 0, and -5. The horizontal axis (x-axis) is labeled with days of the month from 1 to 31. The grid is enclosed in a rounded rectangle.

【一単位時間振り返りカード】

月 日（ ）【名前】_____

① 今日の活動の目標は何ですか？

② 目標は達成できましたか？（はい・いいえ）その理由を書きましょう。

【ぽかぽかレター】

ぽかぽかレター

同級生のよかったところは何ですか？

月 日（ ）

より

月 日（ ）

より

月 日（ ）

より

月 日（ ）

より